

(169 頁より続く)
 ていない(電子密度が約 10^6 個/cm³ 以上という以外の情報
 は得られない)ということと恒星状だということから
 視直径が決まらないので, 中心星に関する情報が 3 節で
 述べた方法では得られない. しかしスペクトル線強度の
 変化から電離ガス包被と中心星の性質を調べ得るとい
 う望みはある. 従って今後とも分光観測をつづける必要が
 ある.

5. 結 び

筆者の研究上の興味故にかなり片寄った視点から惑星
 状星雲をみている恐れがある. しかしそれでも尚, 恒星
 の一生に較べれば一瞬間の出来事である惑星状星雲 (あ
 るいは中心星) の進化に重点を置いて, これらを注目し
 たい. 従って恒星の進化の研究からもたらされる質量放

出機構の解明に対応して, 若い惑星状星雲の研究が今後
 是非必要となる. 因にペレック・コホーテクのカタログ
 に載せられた約 1,000 個の惑星状星雲のうち恒星状にみ
 えるものの割合はかなり大きい. これらの分光観測は系
 統的にも, また定量的にもなされていない. その上, 前
 節で述べた HBV 475 のような天体は惑星状星雲と確定
 されているわけではない. これまで敢えて言及すること
 を避けた FG Sge という星がある. ペレック・コホーテ
 クのカタログでは He 1-5 という名前を有する. 拡散し
 て非常に密度の低くなった電離ガス包被が存在するが,
 その中心星の活動が発見され, 二度目の電離ガス包被を
 形成しつつあるのではないかと考えられている. これら
 の天体も含めて, 若い惑星状星雲によりハーマン・シー
 トン経路を完成させたとき, 恒星進化の上での惑星状星
 雲形成の意味が明らかとなるだろう.

学会だより

松永賞受賞候補者推薦について

松永記念科学振興財団より, 下記要項にしたがって,
 松永賞受賞候補者を推薦されたい旨の依頼が学会あてに
 ありました. 適当な方がありましたら, 6 月 20 日まで
 に学会庶務理事あてに御連絡下さい.

記

(昭和 52 年度松永賞贈呈実施要項抜萃)

1. 本年度の当財団の科学研究に対する褒賞「松永賞」
 は, 社会科学および自然科学系統の基礎的研究で, 学
 術上の業績が特に顕著であると認められるものを対象
 とする. 個人研究でも共同研究でもさしつかえない.

2. 「松永賞」の受贈者は大学に在職し, 昭和 7 年 12 月
 1 日以後出生の少壮有為な科学者中から求める.
3. 「松永賞」は 1 口 150 万円として本年度は社会科学
 部門 1 名自然科学部門 3 名を予定する.

お知らせ

第 10 回日本アマチュア天文研究発表大会

本年も下記により開催されるそうです.
 日時: 1977 年 9 月 4 日 (日) 10 時より
 場所: 栃木県青少年会館
 宇都宮市駒生町 648 番地 Tel: 0286-24-1417
 申込と連絡先
 〒320 宇都宮市花房 3-3-44
 渡辺公鋭 Tel: 0286-36-3113

1977 年 3 月の太陽黒点 (g, f) (東京天文台)

1	—, —	6	1, 2	11	1, 8	16	0, 0	21	0, 0	26	1, 1
2	—, —	7	1, 3	12	1, 3	17	—, —	22	1, 3	27	1, 1
3	2, 6	8	1, 7	13	—, —	18	1, 3	23	—, —	28	2, 4
4	1, 2	9	1, 11	14	1, 1	19	—, —	24	1, 1	29	2, 8
5	2, 4	10	1, 8	15	0, 0	20	—, —	25	1, 1	30	—, —
(相対数月平均値: 10.0)										31	—, —

昭和 52 年 5 月 20 日 印刷発行 定価 300 円	発行人 印刷所 発行所	〒181 東京都三鷹市東京天文台内 〒112 東京都文京区水道 2-7-5 〒181 東京都三鷹市東京天文台内	電話 武蔵野 31局 (0422-31) 1359	社団法人 日本天文学会 啓文堂 松本印刷 社団法人 日本天文学会 振替口座 東京 6-13592
--------------------------------------	-------------------	---	---------------------------	---